

〈学術著作集ライブラリー〉

Tanimoto Tomeri

谷本富

〈全6巻〉

発行 学術出版会
発売 日本図書センター

日本における教育学の生成期、
数々の新しい主張を唱え
強い影響を与えた谷本富。

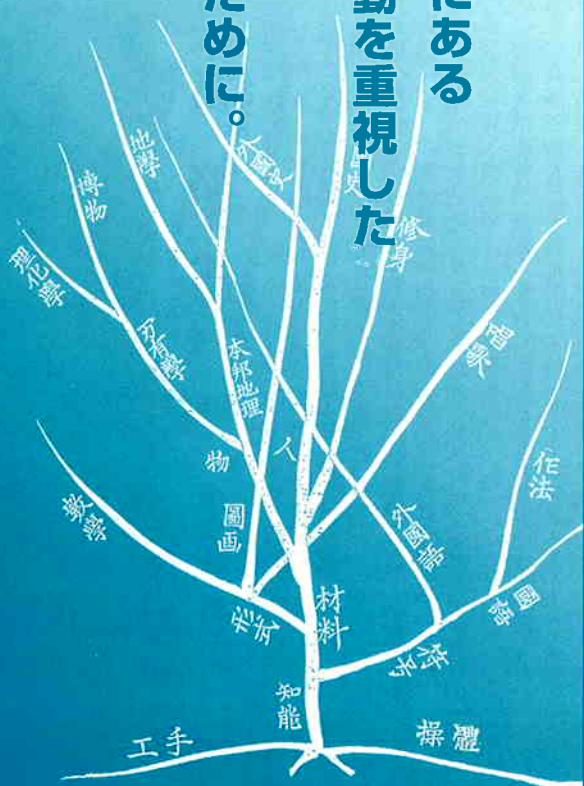
著作集

解説 竹中暉雄(桃山学院大学)

限定
100セット



数々の主張の根底にある
児童生徒の自己活動を重視した
独自の教育学説を
学問的に検討するために。
初の著作集!



日本の教育学において重要な役割を果たしながら、学問的に厳密に検討されることは少なかった谷本富。多弁な著作の奥に、その教育学説を探る全6巻。

◆「谷本富著作集」の特色◆

1. ヘルバルト教育学をはじめ、欧米の学説を幅広く紹介した谷本富。その著作をまとめた初の著作集！『最新教育学大全』（上巻は国会図書館未所蔵）を含む代表作を全6巻に収録。
2. 最終巻に竹中暉雄（桃山学院大学）による解説「谷本富の教育学と京都帝大辞職（沢柳事件）理由について」を掲載。沢柳事件と谷本富について再検討を促す内容。
3. 乃木希典の殉死に関する新聞談話「潔き立派な最後」を収録。京都帝大辞職の理由ともいわれながら、実際の文面はあまり知られていない。通説を検証するためにも必読。

爲すべきものにて、國家は必ずしも之れを負擔すべき理由なく、其の固有の本務とすべき所以はあらず。只近世國家は博愛的にして、復讐に人民の安寧のみを旨とせず、種々の方途に於て其の福利を推進せんとし、從つて特に教育に意を用ひて大小諸般の施設を施行するより、今は確に教育は國家の一要務と成れり。語を變じて云へば國家が其の國民の爲に教育の施設を爲すは固より之れに由つて多少直接に國家自體の存続に便する所あるべきも然かもそれにも勝つて主眼とする所は國民個々の發達を催進し助成せん事が肝要なり。此の事は特に初等教育に於て言ふべく、中等教育高等教育に於ても亦然り。從來の解釋は動もすれば國家の主我觀たるに偏せし如く、余輩は今茲に特に其の博愛觀を高調せんとす。是れ併しながら更に其の根本に遡れば、全く國家そのものと看方を異にするに由ること明なれば、只是れ丈けにては議論は盡きず。暫く一言すれば、余輩の議論は飽迄も國家を人民の爲に存するものとし、他の人民を將て國家の爲に存するものなりとするとは、主客全然倒置せざるべからずと言はんとす。是れ實に最近思潮たる教育のデモクラシー、獨民主觀或は民本觀にして、而して吾が國今日の官僚的

第四卷 序 文

七四九

◆各巻の主要内容◆

第1巻 科学的教育学講義（六盟館 明治28（1895）年）
序論／第一編 教育の目的を論ず／第二編 教育の方便を論ず／第三編 教育の事業を論ず

第2巻 将来の教育学（六盟館 明治31（1898）年）
緒言／第一章 将来の教育学とは何ぞ……国家的教育学は是れなり／第二章 国家的教育学思想の沿革／第三・四章 国家的教育学に於ける予定（上下）／第五章 教育の目的を論ず／第六章 教育の事業を論ず／第七章 教科を論ず／第八章 各学科教授上に於ける注意／第九章 予修及び完成に就きて論ず／第十章 国家と教育との関係

第3巻 系統的新教育学綱要（六盟館 明治40（1907）年）
序言／前加篇 新教育に就いて（演説）／序引／通論／第一章 教育学とは何ぞ／第二章 新教育学とは何ぞ／第三章 教育の積義如何／第四章 教育の目的は何ぞ／第五章 教育の可能と制限／第六章 教育の始終／各論／第一章 教育の当体／第二章 教育者／第三・四章 教育の設備（上下）／第五章 教授を論ず／第六章 訓練とは何ぞ／付録／所謂新教育とは何ぞ（演説）／津田の松原（記事）

第4巻 潔き立派な最後（新聞談話）
（大阪毎日新聞 大正元（1912）年9月17日）
道徳革新論（大学講義全集 第一集）
（大日本図書 大正4（1915）年）
序論／第一章 善悪の標準／第二章 人生の目的／第三章 身体の注意／第四章 節制の必要／第五章 迷信の破却／第六章 孝行と忠義／第七章 男女の関係／第八章 奢侈と美術／第九章 成功論と武士道
付 欧州最近思潮一斑

谷本富 略年譜

慶応三（一八六七）年			
明治十五（一八八二）年	十五歳		十月十七日、讃岐国高松（現香川県高松市）に生まれる。 *谷本自身は、家族や近親者に対し慶応二年の生まれと語っていたが、ここでは戸籍上の生年を採った。
明治十八（一八八五）年	十八歳		十一月、東京大学医学部別課程医学教場を受験し合格。学費を払うが進路変更し、同人社（中村正直の英学塾）に入学。
明治二二（一八八九）年	二二歳		七月、同人社を卒業。九月、東京大学文学部哲学科課程に入学。
明治二三（一八九〇）年	二三歳		七月、東京大学文学部課程を卒業。九月、帝国大学文学部特約生教育学科に入学。ドイツ人教師エーミール・ハウスクネヒトよりヘルバルト教育学を学ぶ。
明治二六（一八九三）年	二六歳		七月、特約生教育学科を卒業し、山口高等中学校教授に就任。
明治三二（一八九八）年	三二歳		五月、東京高等師範学校教授に就任。
明治三二（一八九九）年	三三歳		三月、文部省視学官を兼任。
明治三六（一九〇三）年	三六歳		五月、文部省より三年間の欧州留学を命じられる。
明治三八（一九〇五）年	三八歳		二月、京都帝国大学理工科大学講師に就任。
明治三九（一九〇六）年	三九歳		論文「中等教育の根本的革新」を東京帝国大学文学部に提出。七月、文部省より教育学関係で最初の文学博士号を授与されるが、印刷公表されず。
大正元（一九一二年）	四五歳		二月、仏教大学（現龍谷大学）講師に就任。
大正二（一九一三年）	四六歳		七月、京都帝国大学文学部哲学科「教育学教授法」講座の教授に就任。
大正十二（一九二三年）	五六歳		明治天皇葬儀の日（九月十三日）に殉死した乃木希典に関する批判的な談話が、『大阪毎日新聞』（九月十七日付）に掲載される。
昭和三（一九二八年）	六一歳		大谷大学講師、神戸高等商業学校講師を辞任。
昭和二二（一九四〇）年	七九歳		七月、総長・沢柳政太郎から谷本を含む七教授が辞表提出を求められ、八月、京都帝国大学を依願退官（沢柳事件）。以後は仏教大学（現龍谷大学）講師などを務める傍ら、著述・講演活動を展開。 『最新教育学大全』上下（同文館）刊行。 一月、毎日新聞社顧問に就任し、全国各地で講演活動。 二月一日、死去。

◆内容見本◆

▲第5巻収録「最新教育学大全 上巻」より（約65パーセント縮小）。
教育行政論を展開するなかで、谷本は國家を「人民の爲に存するもの」と述べ、
続けて「今日の官僚的見解の如きは既に一種の時代錯誤」と評している。

*略年譜は『龍谷大学博士略歴』柏原長弘「谷本先生医学修行日記」（『中等教育の革新』谷本先生遺稿出版委員会（一九六二年）所載）ほかを参照し、編集部で作成した。

第5巻

最新教育学大全 上巻（同文館 大正12（1923）年）
序論／第一章 教育学の意義並に沿革学風／第二章 教育学の定義並に性質位置／第三章 教育学の研究法
本論／第一篇 教育本然論／第一章 教育とは何ぞ／第二・三章 教育の基礎並に条件（上下）／第四・五章 教育の目的を論ず（上下）／第六章 教育の効果／第七章 教育の社会に及ぼす効果／第八・九章 被教育者の身体（上下）／第三・四章 児童心理の一斑／第五・六章 青年心理の一斑（上下）／第六・七章 女子の身体並に心理の一斑／第七章 個性研究に就いて／第八・九・十章 破格的児童に就いて（上・中・下）／第十一・十二章 年少犯罪者に就いて（上下）／第十三章 教育設備論／第一章 家庭／第二章 幼児教養の設備／第三章 幼児学校並に幼稚園／第四章 学校／第五章 学校の体系

第6巻

最新教育学大全 下巻（同文館 大正12（1923）年）
第三篇（承前）／第六章 学校の設備／第七章 教室内の設備／第八章 教授用具並に施設／第九・十章 教師論（上下）／第十一・十二・十三章 社会的教育施設の一斑（上・中・下）／第四篇 教育方法論／第一章 教育方法論の通説／第二章 家庭に於ける教育／第三章 幼稚園の教育／第四章 学校管理の基礎的研究—学習法一斑／第五章 学校内の秩序—組別並に級別／第六章 学科課程と時間表／第七章 学年学期並に日課／第八章 教授法の基礎／第九章 教授方法の実際／第十・十一章 德育の新旧両観／第十二章 学校生活に由る教育／第十三章 学校騒動と生活自治／第十三章 教育上の賞と罰
引用欧米書籍原名対照表
解説「谷本富の教育学と京都帝大辞職（沢柳事件）理由について」（竹中暉雄）
略年譜



谷本富著作集 全6巻

■定 価 99,750円 (本体95,000円+税) ISBN978-4-284-10345-9

■解 説 竹中暉雄 (桃山学院大学)

■体 裁 A5判、上製、個函・セット函入、総約3,100頁

2011年10月刊行

収録内容

- | | |
|--------------------------------|---------------------------|
| 第1巻 科学的教育学講義(六盟館 1895年) | 第5巻 最新教育学大全 上巻(同文館 1923年) |
| 第2巻 将来の教育学(六盟館 1898年) | 第6巻 最新教育学大全 下巻(同文館 1923年) |
| 第3巻 系統的新教育学綱要 (六盟館 1907年) | 解説・略年譜 |
| 第4巻 潔き立派な最後(大阪毎日新聞 1912年9月17日) | |
| 道徳革新論(大学講義全集 第一集) | |
| (大日本図書 1915年) | |

おすすめ先 大学・公共図書館／教育学、教育史、教育思想史の研究者／教育センター資料室など

続刊予定(*順不同) 高坂正顕、笠信太郎、春山作樹、小泉郁子、木村素衛、青木誠四郎、蟬山政道ほか

好評既刊

長田新著作集 全7巻



- 定価 98,700円 (本体94,000円+税) ISBN978-4-284-10337-4
 - 体裁 A5判、上製函入、総約3000頁
 - 監修 長田五郎(横浜国立大学名誉教授)
 - 解説 鈴木由美子(広島大学教授)
 - 刊行 2011年9月
 - 収録内容
- | |
|-----------------------------|
| 第1巻 現代教育哲学の根本問題(改造社 1926年) |
| 第2巻 教育活動の本質(同文書院 1936年) |
| 第3巻 最近の教育哲学(岩波書店 1938年) |
| 第4巻 教育哲学(岩波書店 1959年) |
| 第5巻 ベスタロッター教育学(岩波書店 1934年) |
| 第6巻 ベスタロッター伝 上巻(岩波書店 1951年) |
| 第7巻 ベスタロッター伝 下巻(岩波書店 1952年) |
- 解説/小伝・略年譜

篠原助市著作集 全7巻



- 定価 96,600円 (本体92,000円+税) ISBN978-4-284-10307-7
 - 体裁 A5判、上製函入、総約3000頁
 - 解説 木内陽一(鳴門教育大学教授)
 - 刊行 2010年10月
 - 収録内容
- | |
|----------------------------|
| 第1巻 批判的教育学の問題(東京宝文館 1922年) |
| 第2巻 理論的教育学(教育研究会 1929年) |
| 第3巻 教育の本質と教育学(教育研究会 1930年) |
| 第4巻 教育断想(宝文館 1938年) |
| 第5巻 シュライエルマッヘル(岩波書店 1939年) |
| 教育学(岩波全書)(岩波書店 1939年) |
| 第6巻 教授原論(岩波書店 1942年) |
| 第7巻 訓練原論(宝文館 1950年) |
- 解説・略年譜

乙竹岩造著作集 全6巻



- 定価 98,700円 (本体94,000円+税) ISBN978-4-284-10220-9
 - 体裁 A5判、上製函入、総約2900頁
 - 解説・略年譜 樽松かほる(桜美林大学教授)
 - 刊行 2010年3月
 - 収録内容
- | |
|-----------------------------|
| 第1巻 欧米教育視察報告十二集(目黒書店 1908年) |
| 第2・3巻 実験教育学(目黒書店 1908年) |
| 第4巻 軌近教育事実の進歩(目黒書店 1916年) |
| 第5巻 現代教育学汎論(培風館 1934年) |
| 第6巻 日本教育学の枢軸(目黒書店 1939年) |
- 解説・略年譜

野口援太郎著作集 全6巻



- 定価 88,200円 (本体84,000円+税) ISBN978-4-284-10182-0
 - 刊行 2009年9月
 - 体裁 A5判、上製函入、総約2250頁
 - 解説 石橋哲成(玉川大学教授)
 - 収録内容
- | |
|--------------------------------|
| 第1巻 自由教育と小学校教具(集成社 1921年) |
| 第2巻 新教育の原理としての自然と理性(聚芳閣 1926年) |
| 第3巻 高等小学校の研究(帝国教育会出版部 1926年) |
| 第4巻 私の学校(私家版 1930年) |
| 私の教育思想と其実際(木犀会 1935年) |
| 人生と教育の真諦(明治図書 1937年) |
| 第5巻 教育的国史観(明治図書 1937年) |
| 第6巻 先づ教育を革新せよ(平凡社 1938年) |
- 解説・略年譜

〈発行〉

学術出版会

〒112-0012 東京都文京区大塚 3-8-2
TEL 03-3947-9153 FAX 03-3947-9157
http://www.gaku-jutsu.co.jp
E-mail:info@gaku-jutsu.co.jp

〈発売〉

日本図書センター

〒112-0012 東京都文京区大塚 3-8-2
TEL 03-3947-9387 FAX 03-3947-1774
http://www.nihontosho.co.jp

取扱書店